



国際医療福祉大学

2020年5月29日発行 学校法人国際医療福祉大学
<https://www.iuhw.ac.jp/>

「共に生きる社会」の実現をめざして

IUHW

International University of Health and Welfare

vol. **121**
May
2020



ダイヤモンドプリンセス号に向かう熱海病院DMAT隊員

特集 新型コロナウイルス対策について

国際医療福祉大学成田病院 開院

令和元年度 学位記授与式

入学者へのメッセージ

新任のごあいさつ

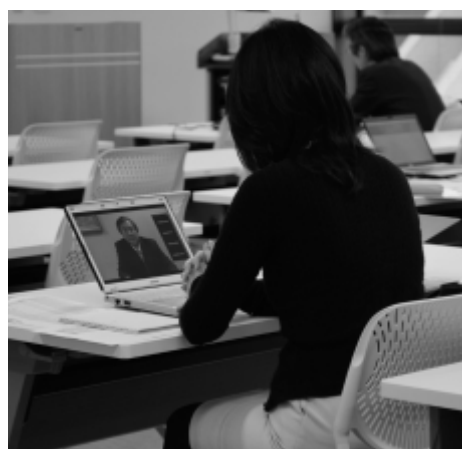
学位記授与式縮小、入学式中止など、さまざまな新型コロナウイルスへの対応

昨年末から進んだ新型コロナウイルス感染症の世界的拡大で日本政府は4月7日、緊急事態宣言を発令したが、本学でもこれと前後してさまざまな学事日程や授業方法の変更などを行った。キャンパスにより、環境や事情は異なるものの、「密閉」「密集」「密接」の「三密」を避けつつ、学生、教職員の命と健康を守り、教育、研究、診療を続け、社会に貢献するための取り組みだ。これらの措置は、当面のものであり、感染状況の推移によっては今後、対策の追加や変更も柔軟に行っていく。

3月9日福岡・大川、11日大田原、12日成田、13日小田原の各キャンパスで開催した2019年度学位記授与式は規模を縮小して卒業生と学内教職員だけで行い、ご家族などの参列は取りやめた。入場時には手指の消毒と体温測定を行い、37.5度以上の熱がある場合は医師が診察する体制を整えた。また、終了後の懇親会なども行わなかった。

4月2日東京赤坂、3日大田原、4日小田原、5日成田、7日福岡・大川の各キャンパスで予定していた20年度入学式は中止し、高木邦格理事長、大友邦学長、三浦総一郎大学院長がそれぞれビデオメッセージを通じて、この非常時に入学してくる新入生に対し、「厳しい環境だが生活を律して勉学に励み、この経験を将来に生かすように」と語りかけた。

国際医療福祉大学・高邦会グループの医



●高木理事長のメッセージは各学科のオリエンテーションで配信された

療福祉施設は、コロナ感染の拡大防止はもちろん、広く医療福祉サービスを継続して提供するという社会の要請に日々向き合っている。学内の体制としては、需給が逼迫するマスクなど感染防止用の資機材を統一的に管理し、感染を防いで教育や職務を全うするため、13日に東京赤坂キャンパスに「感染症対策本部」を、22日には遠隔授業を実施する「オンライン授業本部」を設置して、対策を一元化した。

学生が登校せず、自宅などで受けるオンライン授業システムを急遽立ち上げた。一部の学生には通信環境が整っていないものもあったが、早急に環境整備を進め、20日に新入生のオリエンテーションを学科ごとを実施、22日からインターネットなどを利用した新年度の遠隔授業がスタートした。新入生は入学以来キャンパスに集まったことがなく、教員や同級生たちと面識がない

ままの授業開始となった。医学部以外の臨床実習については、緊急事態宣言が発令されている間は中止、医学部の実習も実習受け入れ施設にさまざまな課題や意見があり、協議して決めることにしている。

登校が可能になった後の授業は当面の間、教室などの換気・消毒を徹底して行う方針。座席は間隔をあけて着席し、臨床実習は実習先施設の意向や感染リスクを考慮して実施する。各学生の健康管理表を作り、毎日、体温や体調などを記入し、1人でも感染した場合は休校も検討することとしている。双方向で講義・演習が可能な遠隔システムの構築も急いでいる。

これに先立ち、春休み中の在学生に対しては、大友学長名で「春休み期間中の海外渡航について（注意喚起）」との通達を出し、海外渡航をしないように要請した。やむを得ず渡航する場合は、大学に届けを出すことにした。また、国内でもマスクの着用や咳エチケット、手洗い・アルコール消毒の励行、クラスター（集団）を発生させやすい場所への出入りの自粛を求めた。

2、3月に予定していた、「海外保健福祉事情」などの海外研修は、派遣先の態勢が整わなかったり、渡航先の国・地域で行動制限を受けたたり、出国が困難になったりすることを考慮して中止した。新年度以降、コロナの終息状況などを見極めて実施を検討する。

3月下旬以降に各キャンパスで予定していた、将来の受験生に対するオープンキャンパスは延期し、慎重に再開時期を探る。

4月1日の開院を3月16日に前倒しした国際医療福祉大学成田病院の開院記念式典なども開催を見合わせ、診療が始まっ



●大田原キャンパスでのオンライン授業の様子

た。4月に開設した福岡薬学部、成田保健医療学部放射線情報科学科、東京赤坂キャンパス棟なども静かなスタートとなった。

教職員に対しても、学生に対するのと同じ注意喚起を行い、出勤前の体温測定・健康観察を行うように指示した。また、不要不急の外出（飛行機・新幹線等の利用）、会食・パーティーへの参加、バーやスナックなどへの出入りを禁止し、発熱症状がある場合は所属長に連絡することを徹底した。そのうえで、一部の教職員にはテレワークによる在宅勤務などの措置も行った。

こうしたなかで、3月20日には東京赤坂キャンパスの教員2人の感染がわかった。感染者を隔離するとともに、感染症対策本部が、学内の専門家の指導のもと2人と接触した教職員の健康観察を行ったが、症状が出た者はなかった。所轄保健所と連絡を取り、濃厚接触者がいないことを確認し、2人が利用した大学施設の消毒・換気を行った。

新型コロナウイルス感染拡大で本学は政府の要請を受け、2月5日以降、各分野にわたる貢献をした。武漢からチャーター機で帰国した邦人の宿舎となった税務大学校埼玉県和光市に医師、看護師を派遣して感染症対策の指揮をとる一方、医学部ではクルーズ船乗客・乗員の検体についてPCR検査を行った。数々の活動のなかから、クルーズ船での災害派遣医療チーム（DMAT）や感染症対策専門家の奮闘を報告する。

大黒ふ頭（ダイヤモンドプリンセス号）におけるDMAT活動

熱海病院

横浜大黒ふ頭に停泊していたダイヤモンドプリンセス号での新型コロナウイルス感染症対策で、熱海病院DMAT隊員は2月9日と14日、厚生労働省の要請を受け、船内に残る乗客への医療活動を行った。

熱海病院は2019年4月、静岡県から災害拠点病院に指定され、災害・事故が起った際に都道府県等からの要請を受け被災地域に出勤するDMATが構成されている。今回の派遣内容は、感染症対策の初期段階として、同船内の乗客対応を行った。

発熱している乗客の検体採取及びPCR検査で陽性となった乗客に対して診療することが主たる業務だった。活動に参加した隊員は医師1人、看護師2人の計3人で、朝8時に乗船し、午後8時に下船するまで1日に約12時間船内活動を行った。9日の活動では、隊員は普段医療機関



●ダイヤモンドプリンセス号へ向かうDMAT隊

で勤務する医療従事者で感染の知識はあるものの、新型コロナウイルス感染症の初期段階ということと、知りうる情報に限りがあることから感染を蔓延させぬよう慎重に活動し、そのなかにおいても冷静な対応が求められることの難しさを感じた。14日の活動では、DMAT以外の医療職（感染症学会、全日本病院協会災害時医療支援活動班ⅡAMAT、日本医師会災害派遣チームⅡJMAT等）も乗船しており、感染症対策の問題点が数日の間で急激に更新されていることとあわせて、患者搬送の体制が整ってきたことを感じることもできた。

現在、新型コロナウイルス感染症は熱海市民にも陽性患者が発生し、新たな局面を迎えている。今後もDMAT隊員として広域活動はもとより、地域で活動を求められることも想定される。どのような場合であっても情報に流されることなく正しい対応と冷静な判断を行い、今後も活動していきたいと思う。

（熱海病院 白井博之、岡本龍一、田之上愛）

塩谷病院

感染者多発で問題となったクルーズ船ダイヤモンドプリンセス号における乗客乗員の下船・搬送などの業務支援要請を厚労省から受け、2月18日当院のDMATチーム（一瀬雅典医師・岡浜雅子看護師・阿久津隼人看護師・長島雄二業務調整員）が横浜大黒ふ頭に出動した。

当初は船内活動が搬送業務を想定し、先行活動した熱海病院DMATからも情報収集し、救急車内の養生もして臨んだが、栃木県の方針で船外での活動となった。岡浜・長島はターミナルセンター内での指揮所業務を担当し、一瀬・阿久津は万全の防護装備で下船出口での管理業務を担当した。そこでは続々と下船してくるPCR陽性者を主体とした乗客・乗員の方々（80—90人）と接して氏名確認し、各搬送車両に振分ける業務を担当したが、前日まです異なる自衛隊車両での大人数搬送ミッションなどが入ったことや、ご家族で陰性陽性が分かれた方々の同時下船などで現場はかなり混乱した。早朝7時から夜9時近くまでの業務を終え、夜中12時過ぎに病院帰着したときは疲労困憊であった。



●反省会の様子

現在当院でも発熱者外来の運営や感染者受入れ病棟整備などが進むが、今回の経験を十分に踏まえ、特定の人に負担が偏らず、また確実な防護をして頑張っている医療者が偏見を受けないような体制構築にDMATとして役立っていききたいと考えている。

（塩谷病院 一瀬雅典）

本学のダイヤモンドプリンセス号での新型コロナウイルス対策支援について

医学部公衆衛生学 教授 **和田耕治**

厚生労働省から本学への依頼のもと2月10日から22日まで新型コロナウイルス対策で専門家派遣を行いました。派遣は延べ日数・医師14・5人日、看護師25人日、薬剤師13人日でした。医師は3人、薬剤師は9人、看護師は10人、運転手は2人が参画しました。本学が行った業務は以下です。

- ①乗客の検体採取
- ②コロナウイルス陽性者への告知
- ③ダイヤモンドプリンセス号の会社と厚生労働省のリエゾンの調整業務（スタッフの健康管理ならびに衛生習慣の指導、部屋やバスの消毒方法の指導など）
- ④現地対策本部における発熱患者のフローの調整ならびに改定
- ⑤環境のウイルス特定のための調査の調整と実施
- ⑥下船者への感染管理の資料作成
- ⑦船の換気について三菱造船との連携
- ⑧厚生労働省にて専門家会議への出席
- ⑨船内の対策についてのメディア対応
- ⑩乗客の薬の仕分け

また、熱海病院ならびに塩谷病院のDMATとも、感染予防について連携しました。今振り返ると、日本はこの対応から多くのことを学びました。しかし、その学びがその後の対策に生かされたかという点と十分どころもあつたかもしれません。すでに、国内での感染拡大で本学を含めて多くの患者により医療が崩壊しつつあります。

皆さんのなかにも、もしかしたら名乗りをあげて、参画したいという方もおられたかもしれません。新型コロナウイルスからもう私たちは逃れることはできません。そのため、早くこの感染症への対応を習得した医療従事者や医療機関が今後は強いといえます。学生の皆さんも早めに新型コロナウイルスの対策について学んでいただければと思います。

こうした状態は、今後は少なくとも1年から2年は続くと思つての対策を行う必要があります。1人ひとりが感染しないように手洗いや、人との距離をとるなどの感染対策を十分にとることが大事です。もし発熱などがあれば他の人に感染させないようにすることも大事です。

最後に、このような機会をいただきましたことに感謝します。感染リスク

や困難はありましたが、多くのことを学びました。今後の医療機関での患者対応も含めて、数年後に本学のレガシーとなるように記憶や記録として受け継がれるようなれればと思います。



●左から藤田烈講師、橋本岳厚生労働副大臣、和田耕治教授

未来研究支援センター講師 **藤田烈**

厚生労働省の要請により、2月10日から22日までの13日間、クルーズ船ダイヤモンドプリンセス号に乗船し、感染対策支援活動を行いました。本稿ではその概略を報告します。

ダイヤモンドプリンセス号（以下クルーズ船）は、2020年1月20日に横浜港を出発し、鹿児島、香港、ベトナム、台湾、および沖縄に立ち寄り、2月3日に横浜港に帰港しました。1月25日に香港で下船した乗客から新型コロナウイルスが検出されたため、日本政府は2月3日からクルーズ船への立ち入り検疫を開始しました。5日に陽性者10人が判明したため14日間の船室隔離を開始、その後10日までに70人を超える陽性者が見つかり大規模な集団感染が生じていることが発覚し、厚生労働省から本学に支援要請が届けられました。私は、本学の支援チームの一員として、クルーズ船内の感染対策支援活動に参加しました。

クルーズ船内は本場に特殊な場所でした。全長290m、18階の巨大な構造物であり、乗客2666人、乗員1045人、合計3711人が滞在している大規模な居住空間でした。乗船後最初に案内されたパブリックエリアは、複数のレストラン、映画館、カジノ、ブティック、バー

などが立ち並ぶ巨大ショッピングモールのような空間でした。利用客のいない閑散としたなかを、全身防護服姿の医療スタッフが歩いている様子は、映画のなかへ入り込んでしまったような不思議な感覚でした。客室エリアは狭い通路の両側に多数の客室が並ぶホテルのような構造であり、一部の上級客室を除き概ね20平方メートル前後の広さでした。家具や調度品は豪華客船の雰囲気を保っていたが、客室内に行動を制限されている乗客の疲労や負担は容易に想像できました。

乗客の大多数は高齢者であり生活支援を必要とする方が少なくない、乗客の客室内での生活を維持するため乗員の活動は止められない、狭い廊下や入り組んだ構造の中で人の動線を分けることが難しい、防護服の着脱や回収した検体の整理に用いることができるスペースも限られている、高齢者や基礎疾患をもつ乗客を早急に下船させるため大量の検体採取を迅速に実施しなければならぬなど、船内での感染対策活動には特殊な環境に依存するさまざまな問題がありました。

このようななかで、IUHWチームは、乗客の検体採取、陽性者への告知、乗客の薬の仕分け、環境中のウイルス調査、乗員の健康管理ならびに衛生習慣の指導、下船後の客室消毒方法の検討、下船客移送に用い

たバス消毒方法の指導など、多岐にわたる支援活動を展開しました。活動期間中の延べ派遣人数は、医師14・5人、看護師25人、薬剤師13人の合計52・5人でした。リスクの高い難しいミッションでしたが、チームで結束し、支えあいながら、チーム内からひとりの感染者も出さずことなく無事に役割を果たすことができました。素晴らしいチームの一員として活動できたことを誇りに思います。

本学は、本件以外にも、チャーター便帰国者収容施設（税務大学）支援、医学部におけるクルーズ船乗客・乗員のPCR検査、熱海病院・塩谷病院DMAT派遣、新型コロナウイルス陽性患者の成田病院受入れなど、国難と呼ばれる今回の新型コロナウイルス感染問題に全学をあげて取り組んでいます。本稿執筆時点で終息の気配はなく、新型コロナウイルスとの戦いはまだまだ続くと思われていますが、力を合わせて困難を乗り越えていきたいと思います。

クルーズ船感染対策チーム構成員

和田耕治、加藤康幸、矢野晴美、谷山牧、藤田烈、前澤佳代子、杉山奈津子、土屋翔、直井皓平、増田智先、鐘司光貴、瀬尾誠、板谷直行、齋藤勲、佐藤真由美、原田浩一、竹中香名子、吉岡留美、林有、田崎さやか、松本厚子、戎初代、佐藤政仁、齋藤敏、滝本重行

特集 新型コロナウイルス対策について

本学の新型コロナウイルス対策

大黒ふ頭におけるDMAT活動（熱海病院、塩谷病院）

ダイヤモンドプリンセス号での支援について（和田耕治教授、藤田烈講師）

国際医療福祉大学成田病院開院

入学者へのメッセージ

高木邦格理事長、大友邦学長、三浦総一郎大学院長

トピックス

2020年度学部新入生・大学院新入生概要

福岡薬学部、成田保健医療学部放射線・情報科学科を開設

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社奨学生感謝の集い

赤坂W棟が完成し、赤坂山王保育園がオープン

マロニエ苑開設30周年

2019年度国家試験結果

学位記授与式・卒業生特集

大田原キャンパス／成田キャンパス／小田原キャンパス／大川・福岡キャンパス／大学院学位記伝達式／塩谷看護専門学校卒業式

卒業生総代／学長賞／大学院院長賞

2019年度博士課程修了者・論文博士合格者一覧

新任のごあいさつ

長沢 光章 成田保健医療学部 学部長

中田 光紀 赤坂心理・医療福祉マネジメント学部 学部長

廣岡 良隆 福岡保健医療学部 学部長

武田 弘志 福岡薬学部 学部長・薬学科長

八木 秀樹 薬学部 薬学科長

横島 啓子 小田原保健医療学部 看護学科長

森田 正治 小田原保健医療学部 理学療法学科長

岡田 佳詠 成田看護学部 看護学科長

勝保 健一郎 成田保健医療学部 放射線・情報科学科長

金子 秀雄 福岡保健医療学部 理学療法学科長

山中 寿 福岡保健医療学部 理学療法学科長

柿澤 佳子 山王メディカルセンター 院長

小湊 雄一 赤坂山王保育園 園長

田中 浩之 サポートハウス那須 施設長

救急医療部（福岡キャンパス）

キャンパスブラス・クラブ・サークル紹介

国際医療福祉大学成田病院 2020年3月開院

本学6番目の附属病院であり医学部の本院となる国際医療福祉大学成田病院が3月16日、成田国際空港近くの千葉県成田市畑ヶ田に開院した。当初4月1日の開院予定だったが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、大学病院としての社会的責任を果たすべく医療体制を整え、地域住民の健康を守るため前倒しを決定した。

開院当初は内科・総合外来と発熱・感染症外来のみの完全予約制で、ウイルス等を外部に漏らさないために内部の気圧を低くした陰圧室12床を含む個室病床46室で対応した。予定していた開院記念式典などは見送ったが、4月から一般診療が始まり、5月には約200人の常勤医のもと322床で全診療科の外来、入院、救急が本格的にスタートし、合わせて予防医学センターの人間ドック専用フロアが稼働。アジアを代表する世界的なハブ病院をめざし、これまでにない先進的な診療科・センターを整備して国内外から患者様をお迎えする。JR成田駅から路線バス、成田国際空港と京成線公津の杜駅からシャトルバスも運行している。

病院棟（地上8階）、健診棟（同4階）、教育研修センター（同8階）の3棟からなり、延床面積は約10万5513平方メートル。すべて稼働すると病床数は642床で、内訳は一般病床600床、精神病床40床、第一種感染症病室2床。41の診療科と、各センターで運営する。人間ドックは1日200人まで対応し、院内の各診療部門とシームレスに連携できる体制を整えている。医学部をはじめとした各学部学生の臨床研修施設としての機能も発揮する。

各分野でトップクラスの実績を持つ経験豊かな医師がそろっており、あらゆる疾患に対応できるよう、総合的な診療を行っている。新型コロナウイルスなどの感染症に対しては、国際臨床感染症センターや呼吸器内科などの機能を存分に発揮し、空港至近の地の利を生かした水際対策として、感染症対策に貢献する。一方で、千葉県内での導入実績が極めて少ないトモセラピーやダビンチの最新鋭機など、充実した設備・アメニティを完備して、成田市をはじめ千葉県内に高度な医療を提供する。遺伝子診断センターは、医学部の

ゲノム医学研究所と連携しながらゲノム医療を推進し、国際遠隔診断センターでは、アジアをはじめとする海外の施設とつないだ画像診断、病理診断、内科診断などで相互の診断・治療の向上に努める。がん放射線治療センターでは、根治とともに、身体への負担と副作用の低減を追求していく。

また、万が一の災害時には災害拠点病院としての機能を果たすため、72時間稼働する非常用電源も備えている。

海外の提携病院からの紹介患者や訪日外国人にも対応するため、英語、中国語、ベトナム語など言語別のスタッフを常時そろえた国際ラウンジを設置した。ハラル食専用の厨房を完備して食の多様性に対応し、宗教関連施設も設置するなど、文化面にも配慮している。プール、ジム、サウナなどを備えた健康増進センターでは、医師やメディカルスタッフが医学的な視点から健康づくりのサポートを行う。

本学の成田キャンパス医学部をはじめ、各学部、附属・関連施設や地域医師会とも密接に連携し、地域医療に貢献する。これまでの病院とは全く違った新しい世界水準の医療を提供するとともに、優秀な人材育成をめざしていく。

成田病院前倒し開院
記者会見

前倒し開院を控えた3月12日、報道向け内覧会が開催され、テレビや新聞など計14社の記者とスタッフが参加した。当初は4月1日の開院に伴い、3月25日に内覧会を実施する予定だったが、開院前倒しが決まったことで内覧会と関連行事は取りやめになった。ところが、メディア側の関心が高く、強い要請を受けて急ぎよ、実施が決まった。

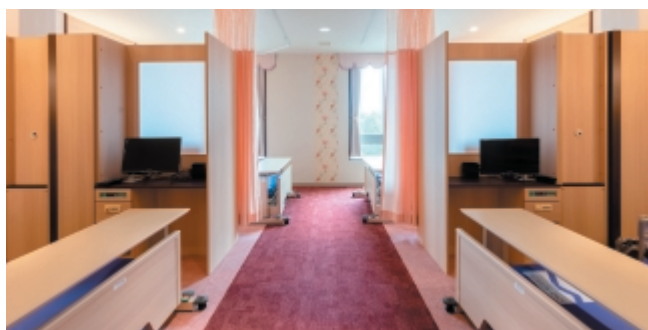
まずはじめに記者会見が行われ、宮崎勝病院長と感染症科の専門医である加藤康幸教授、矢野晴美教授が出席。宮崎病院長は前倒しの理由について「新型コロナウイルス感染の拡大で、他の医療機関のご苦勞を少しでも軽減し、私どもでも分かち合つて、患者さんに対する医療の提供ができればというのが目的です」と説明した。記者からは診療体制のほか、感染を確かめるためのPCR検査の体制についても質問があり、宮崎病院長は「成田キャンパスで1日最大80件可能」と話した。

会見後に内覧

がスタート。加藤教授、矢野教授が中心となって説明が行われた。病院棟6階の陰圧室や感染症外来の動線などに注目が集まり、新聞・テレビで広く報道された。



●開院について説明する宮崎病院長（中央）



●産科病棟（4床室）



●総合待ち合い



●ハイブリッド手術室



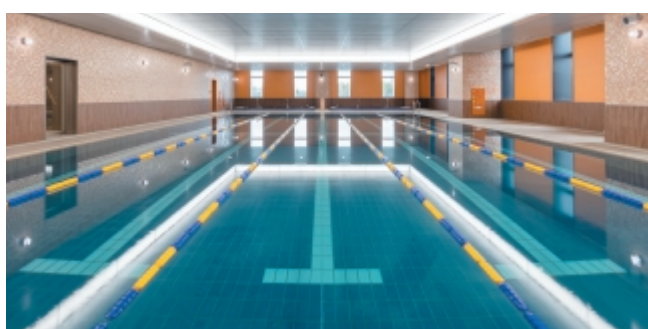
●トモセラピー



●予防医学センター



●小児病棟



●プール



●フードコート



国際医療福祉大学・高邦会グループ理事長

高木 邦格



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。創立25周年の節目の年に学部2267人、大学院450人が入学しました。今年は新型コロナウイルス感染症状況を考え、入学式を中止しました。心待ちにしていた皆さん、保護者の方々の残念な気持ちは察するに余りありますが、4月20日のオリエンテーションをもって大学、大学院生活は始まりました。気持ちを切り替えて、遠隔教育ですが学業に取り組みたいと思います。

国際医療福祉大学・高邦会グループは1910年に現在の福岡県大川市で開院した高木眼科医院以来、111年目の伝統を誇り、95年に医療福祉の初の総合大学を栃木県大田原市に開設しました。当時は医師以外の専門職の地位向上、高学歴化をめざした大学でしたが、3年前には成田の医学部も開設しました。

この25年間で2万6498人が卒業し、多数の信頼できる先輩が活躍しています。今年は福岡薬学部と成田保健医療学部放射線情報科学科を開設し、6キャンパス11学部26学科に発展し、学部、大学院を含め、約9700人の学生が学んでおります。建学の精神である「共に生きる社会」の実現、また高邦会の掲げる「生命の尊厳 生命の平等」という医療福祉の理念こそ、本学の教

職員、学生一人ひとりの胸に刻んでいただきたいです。

おそらくこれから少なくとも半年、長ければ2年間にわたって、コロナとの戦い、またコロナに罹る可能性がある社会の中での生活を考えなければいけません。ぜひ、自重自戒しながら生活をしていただければと思います。

国際医療福祉大学は国家試験の合格率、就職率が高く、多数のグループ施設を持つています。この大学で学ぶことは、日本で一流の教員、一流の実習施設、附属病院で教育を受けられるということです。コロナの混乱は、どこかで終息すると思いますので、ぜひ、学生生活で勤勉に勉強していただきたい。

世界中から優秀な留学生を集め、病院においても外国からの患者様を受け入れるような形でやってまいりました。コロナの感染状況でこれから、国際化に対する考え方が変わるかもしれない。だからと言って国際化を全部やめるというわけにはいきません。このようななかで新入生が学生生活をスタートしますが、真に必要な医療、真に必要な患者様や弱者に対する思いやり、また、社会にとって何が必要か。毎日考えさせられています。

「このような時代は100年に1回だ」という本学の先生方もいます。こういう状況の社会や、実習施設の病院や大学のこの環境下での経験は皆さんの勉強の糧、また、人生を考えるうえで逆に言えばチャンスだという風に思っております。

明けな夜はありません。忍耐強くこの生活に耐えながら、皆さんがすばらしい医療人になることを祈念申し上げて、私の挨拶とさせていただきます。

国際医療福祉大学学長

大友 邦



新入生の皆様、ご入学誠にありがとうございます。国際医療福祉大学の教職員を代表して、心からお祝い申し上げます。これから4

年間、あるいは6年間、大学で過ごしていかれるわけですが、すけれども、とても長いようなイメージを持っておられるかもしれませんが、小学校の6年間、中高の6年間を考えると、結構油断しているとあつという間に過ぎて行ってしまうかもしれません。それぞれ、しっかり目標を立てて勉学に励んでいただければと思います。本来であれば直接お会いしてメッセージをお伝えしたかったのですが、新型コロナウイルス感染症の拡大でこのような形になってしまい、とても残念に思っております。まず皆さん、当面は手洗いをしっかりと、それから食事のバランスを考えると、睡眠をしっかりと、ということと体調を整えてご自身が感染しないということをしかり心がけてください。ご自身の身を守ることが、皆さんの周囲の大切な人を守ることにつながります。それから、今回のパデミックは、まだしばらく続きます。ですが、世界の人たちが力を合わせてこれをいかに乗り越えていくかというその経過をしっかりと見極めていただきたいと思います。そのことは、これから医療人として皆さんがキャリアを積んでいくうえで、とても大切な教訓を与えてくれるものだと考えられます。最後になりましたが、皆さんがこれから授業、実習、あるいは友達との交流、クラブ活動等を通じて、楽しく充実した学生生活を過ごして、「ああ、国際医療福祉大学に入学してよかったな」と思っていたように、教職員一同は最大限努力し、皆さんをご支援してまいります。一緒に頑張りましょう。よろしくお願いたします。

国際医療福祉大学大学院長

三浦 総一郎



皆様がこの度、本学大学院にご入学されたこと、誠にありがとうございます。わが国では大学院の教育ニーズが高まっ

ています。少子・高齢化・国際化の波が押し寄せており、未知の知の情報や革新的技術を駆使し、新しいアイデアや価値の創造を生み出し、知のプロパティショナルを育成し、国の発展をめざす必要性が認識されています。そのなかで皆様にはぜひ、重要な役割を担っていただきたいと期待しています。本学大学院の在籍者数は年々増加し、今後は1000人以上での運用を予定しています。わが国では社会人の大学院への進学が2、3割前後と低いのが問題です。本学では働きながら学ぶ環境を実現し、8割以上の方が社会人です。中高年の方も多く、60歳代以上の方も多くおられ、修了生も約3600人に達します。私たちの目標は①先進技術や情報を取り入れたイノベーションの推進とその実装化をめぐした規模の拡大②学術レベルの高度化、専門性を重視した個性化・ブランド化③次世代に活躍する後継者の育成です。大学院では、よりスケールの大きい視点から自分を見つめなおし、専門領域のオピニオンリーダーをめざし、社会に新しい方向性を提言して知的貢献を行っていただきたいと願っています。本学大学院こそが、令和の時代の学問を主導すべきと考えています。現在では困難な状況ではありますが、皆で力を合わせて克服し、是非、高みをめざして大学院での充実した日々を送ってください。

2020年度 学部新入生概要

キャンパス	学部	学科	入学者数
大田原	保健医療学部	看護学科	119
		理学療法学科	100
		作業療法学科	81
		言語聴覚学科	87
		視機能療法学科	54
		放射線・情報科学科	117
		学部合計	558
	医療福祉学部	医療福祉・マネジメント学科	150
	薬学部	薬学科	182
全学部合計			2267

2020年度 大学院新入生概要

課程	研究科	専攻	入学者数
修士課程	医学研究科	公衆衛生学専攻	20
		保健医療学専攻	243
	医療福祉学研究科	医療福祉経営専攻	60
		臨床心理学専攻	24
	薬科学研究科	生命薬科学専攻	1
		修士課程合計	
博士課程	医学研究科	医学専攻	18
	医療福祉学研究科	保健医療学専攻	80
	薬学研究科	医療・生命薬学専攻	4
	博士課程合計		102
大学院合計			450

福岡薬学部、成田保健医療学部放射線・情報科学科を開設

大川キャンパスで準備を進めていた福岡薬学部と成田キャンパスの成田保健医療学部放射線・情報科学科が4月に開設され、第1期生が入学した。これで本学は11学部26学科体制になった。

福岡薬学部には薬学科(6年制)を設置し、131人が入学した。福岡県南地域では初めての薬学部設置だ。初代学部長には武田弘志教授が就任した。新築した薬学部棟(4号館)とその周辺には全国有数の規模を誇る模擬病院薬局や模擬保険薬局があるなど、関連施設が多く、充実した臨床実習を行える。



●大川キャンパス4号館(薬学部棟)

同県では、薬剤師が福岡市、北九州市といった大都市圏に集中しており、大川市など中小都市の病院・薬局では人材が不足している。同学部ができたことで、この地域の状況の改善が期待されている。本学と同市は2018年に①知的、人的、物的資源の活用②共同事業の企画③地域活性化などの相互連携の基本協定を締結している。

これにより、大川キャンパスは2学部5学科で、1学年の定員は計360人となる。完成年度を迎える26年には学生数1700人規模になる予定だ。

一方、成田キャンパスの放射線・情報科学科には54人が入学した。千葉県内の病院に勤務する診療放射線技師は人口10万人当たり30・1人で全国45位。県内唯一の養成校であり、診療放射線技師不足解消への期待が集まっている。初代学部長には勝俣健一郎教授が就任した。近年の医学・医療の進歩は目覚ましく、診療放射線技師は、診療のための画像を撮影するだけではなく、読影の補助や検査の説明も大きな仕事だ。また、がんに対する放射線治療の件数も増えている。このため、画像診断装置や放射線治療装置を扱う高度な知識と技術を有する診療放射線技師が求められている。同学科では、こうした新しい役割を理解し、どうしたら患者様の負担を最小限に抑え、最良の画像や治療を提供できるかを考えられる診療放射線技師の養成をめざしている。

同学科の開設で、成田キャンパスは3学部7学科、1学年の定員は計530人となった。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、開設式や入学式は見送ったが、両学部、学科とも、大田原キャンパスでの教育理念やカリキュラムを踏襲した質の高い授業を行う。他学部、他学科と協力した関連職種連携教育で、「チーム医療・チームケア」を実践し、臨床に強く地域に役立つ医療人育成を進めていく。

あいおいニッセイ同和損害保険 株式会社奨学生感謝の集い

「あいおいニッセイ同和損害保険株式会社奨学生感謝の集い」が2月22日、東京赤坂キャンパスで開かれた。同社の岡崎真雄顧問、鈴木久仁代表取締役会長、金杉恭三代表取締役社長ら8人が出席、本学からは高木邦格理事長、大友邦学長、三浦総一郎大学院長ら教職員20人と、奨学金を利用したOB、OG、現役学生ら57人が顔をそろえた。同奨学制度は1996年に覚書を調印し、97年度から23年間続いている。高木理事長は



挨拶で、「当時同社の前身である同和火災海上保険株式会社の取締役社長だった岡崎顧問が創業100周年の際に本学を視察し、記念事業の一環として奨学金・研究助成金の創設を決めていただいた。こんなに長く続いた例はなく、多年にわたりお世話になっており、感謝いたします」と述べた。

続いて挨拶した岡崎顧問は、「高木理事長の、高齢者介護、リハビリテーションなど、医療福祉に携わる人材を育成したいという熱い思いに大変感銘を受けた。介護の分野は保険事業にも関わりが深く、支援させていただいた。皆さま

んが携わる医療、福祉分野は、国連が提唱する持続可能な社会の実現に繋がっていく。奨学生の皆さんは自分自身が選んだ職業に誇りをもつて頑張っていたいただき」と期待を込めた。



この後、本学から、岡崎顧問、鈴木会長、金杉社長に感謝状と花束を贈呈。元奨学生を代表して卒業生の藤沢正樹氏（茨城県守谷市障がい者福祉センター施設長と齋藤恵子埼玉県立大学看護学科准教授が近況を報告した。

同奨学金制度は学生委員会を経て奨学金委員会で審査・選考し、本学が推薦する品行方正、学業優良で奨学金を必要とする学生を対象に、2～4年次の3年間（薬学部・医学部は2～6年次の5年間）毎年60～180万円支給される。2019年度までに外国人留学生を含む延べ207人が受給し、総額4億3000万円にのぼった。研究助成金は1997年度から3年間、年間500万円を受給した。感謝の集いが開かれたのは2006年以来14年ぶり。

赤坂W棟が完成し、 赤坂山王保育園がオープン

東京赤坂キャンパスの2つ目の校舎となる地上10階・地下1階建てのW棟が4月1日に完成した。これに伴い、2018年に開設した校舎はE棟と呼ばれることになった。W棟には国際医療福祉大学の教室などの施設に加え、社会福祉法人邦友会が運営する赤坂山王保育園がオープンした。追って、医療法人財団順和会の赤坂山王メディカルセンターと赤坂山王病児保育室を開設し、レストランや売店なども完備する予定だ。

赤坂山王保育園の定員は開設時0～2歳児55人、23年には0～5歳児121人に拡大し、港区赤坂やその周辺に通勤する人や近隣住民の子弟を保育する。

新型コロナウイルス感染拡大などにより、新棟の完成式・保育園の開所式などは見送った。同園では本学の建学の精神である「共に生きる社会」の実現を基本理念とし、保護者や地域社会と連携していくなかで、健康で豊かな人間性を持った子どもを育成する質の高い保育をめざしている。保育目標として、心身ともに豊かな子どもも自分できちんと行動できる子どもも意思欲を持つ子どもも思いやりのある子どももを掲げている。



●完成したW棟（右）。左はE棟



●保育室（保育園）



●遊戯スペース（保育園）

赤坂山王メディカルセンターは、E棟1階の山王赤坂クリニックを拡大移転する。母体である山王病院と連携し、質の高い人間ドックと内科・整形外科・小児科診療を行い、リハビリテーションセンターを設置する。

マロニエ苑開設30周年

介護老人保健施設マロニエ苑は1990年に開設され、本年度で30周年を迎える。栃木県内で4番目に歴史が古い老健施設として知られている。2017年にできた国際医療福祉大学医学部には老年病科・老年病学講座が設置され、私（浦野）が主任教授に就任し、マロニエ苑としなすの総合在宅ケアセンターの施設長も兼ねている。医学部主任教授と



●マロニエ苑での診療や症例検討会の様子

老健施設の施設長を兼務するのは日本で1人だけだとみられるが、老年医学を高めるためには重要だ。医学部では2年次は英語3年次は日本語で老年医学の授業を行い、4年次は当苑などで臨床実習を実施する。当苑では定員200人に対し、常時180人程度の高齢者が入所し、リハビリテ

ーションを行っている。ケアセンターと合わせ、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士などのリハビリ専門職が35人勤務し、西那須野地区で最大規模の施設であり、地域の高齢者医療・介護で非常に重要な役割を担っている。一方、19年に行われた全国介護老人保健施設大会で4演題、日本老年医学会学術集会では3演題報告し、今年も4演題を報告する予定だ。臨床教育ばかりでなく、将来の老年医学に貢献できる臨床施設として日本や海外に広くアピールしていく。

老健施設では今後、介護職の人材不足が懸念される。日比経済連携協定に基づくフィリピン人介護福祉士受け入れが開始され、当苑でも2人のフィリピン人介護福祉士候補者が勤務し、国家試験のための勉強をしている。

高齢者医療が魅力ある職場であることを広め、高齢者医療に専門性を持った医療従事者育成にも重点を置いていきたい。

（マロニエ苑施設長 浦野友彦）

理学療法士国家試験合格率 全4キャンパス100%達成

2019年度の「理学療法士」国家試験で、本学は理学療法学科を設置している4キャンパス（大田原、成田、小田原、大川）すべてで合格率100%という快挙を達成した。このほか、「薬剤師」の合格率が97.8%と、私立大学で2年ぶりの全国1位。15年度からの5年間で4回トップの座を占めた。また、「視能訓練士」で6年連続100%、「介護福祉士」で3年連続100%。「保健師」では小田原が6年連続で100%だった。

2019年度 国家試験結果

資格	キャンパス	合格率	資格	キャンパス	合格率
看護師	大田原	97.9%	言語聴覚士	大田原	92.9% 合格者数:全国1位(65人)
	成田	92.2%		成田	88.2% 合格者数:全国9位(30人)
	小田原	97.8%		大川	94.9% 合格者数:全国6位(37人)
	福岡	96.7%		全国合格率	65.4%
	全国合格率	89.2%	視能訓練士	大田原	100% 合格者数:全国3位(37人)
保健師	大田原	98.3%		全国合格率	96.1%
	成田	100%		大田原	98.9% 合格者数:全国2位(87人)
	小田原	100%		全国合格率	82.3%
	福岡	100%		成田	91.8% 合格者数:全国8位(67人)
理学療法士	全国合格率	91.5%		大川	83.1% 合格者数:全国10位(64人)
	大田原	100% 合格者数:全国9位(80人)	臨床検査技師	全国合格率	71.5%
	成田	100% 合格者数:全国5位(84人)		大田原	74.7% 合格者数:全国6位(71人)
	小田原	100%		全国合格率	29.3%
	大川	100%	社会福祉士	大田原	100% 合格者数:全国1位(37人)
作業療法士	全国合格率	86.4%		全国合格率	62.1%
	大田原	100% 合格者数:全国1位(74人)		大田原	100%
	成田	97.4%		全国合格率	80.0%
	小田原	100% 合格者数:全国10位(40人)	介護福祉士	大田原	97.8% 合格率:全国1位(私立大学)
	大川	100%		全国合格率	69.6%
	全国合格率	87.3%			
			薬剤師		

※厚生労働省資料より本学調べ。合格者数および合格率の順位は4年制大学（薬学部は6年制大学）養成校（通信教育課程除く）における本学新卒者の実績。
※全国合格率は全受験者の合格率。※介護福祉士の全国合格率は、介護福祉士養成施設（大学・専門学校）の合格率。

令和元年度学位記授与式

令和元（2019）年度学位記授与式が3月9日福岡・大川、11日大田原、12日成田、13日小田原各キャンパスで開催された。このうち、16年に開設した成田キャンパスは初めて卒業生を送り出した。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大で、各キャンパスともご家族の参列を取りやめ、入場者には手指のアルコール消毒と体温測定を行い、37.5度以上の熱がある場合は医師が診察する体制をとるなど、異例な形で行われた。

各授与式であいさつした高木邦格理事長は、横浜港沖に停泊したクルーズ船「ダイヤモンドプリンセス号」での感染対策で、政府から本学に協力要請があったことを紹介した。そして「その際、本学の多くの医師、薬剤師、看護師が自ら手を挙げて献身的な活躍をしてくれた。感染症と戦う気持ちが必要ならば、日本の医療は崩壊する。本学は医療福祉分野で日本を代表する大学だ。その誇りをもって活躍してほしい」と卒業生を激励した。

また、大友邦学長は式辞で、「感染拡大防止に向け、医療現場で多くの医療人が正しい知識、手順を踏まえ、責務をもって働いている。卒業生も、今の状況、終息する状況を見極め、これから医療の一翼を担う1人として、貴重な教訓としてほしい」と述べた。

成田での式では、宮崎勝国際医療福祉大学成田病院院長が、「医療人としてのプロフェッショナルはどうあるべきか。社会のインフラとして国民のために奉仕する仕事だ。自分を常に高めて多くの国民に貢献できるプロになってほしい」と期待を込めた。

大田原キャンパス 学位記授与式

3月11日、明るい陽ざしに恵まれた大田原キャンパスで「令和元年度学位記授与式」を挙行政した。

式典では大友邦学長から学部卒業生総代の齋藤梨沙さん（看護学科）へ学位記が手渡され、各学科の学業成績優秀者「学長賞」が発表された。

大友学長、高木邦格理事長の式辞に続き、卒業生を代表して齋藤さんが謝辞を述べた。このなかで齋藤さんは「新型コロナウイルス対策では、本学の先生方や先輩方が治療の最前線でご活躍されていると聞いています。私たちもこのような健康危機に直面した時に、率先して行動できるよう日々精進したい」と決意を語った。

大学院学位記授与式は、同日別会場で行われた。三浦総一郎大学院長の式辞に続き、大学院修了生総代の佐藤司さんが謝辞で、「日進月歩で進化する医療に対応するため、常に学びを続け、新たな課題を見つけ、改善に向け取り組むことが大学院を修了した我々の使命である」と抱負を述べた。

卒業生は気持ちを新たに、医療福祉の道の第一歩を踏み出した。卒業生の今後の活躍を教職員一同期待している。

（総務課 川上二郎）



●学部卒業生総代・齋藤梨沙さんによる謝辞

成田キャンパス 学位記授与式

2016年に開設した成田キャンパス初の学位記授与式が3月12日、キャンパス内体育館で行われ、成田看護学部と成田保健医療学部の第1期生331人と大学院修了生8人に学位記が授与された。今回は、新型コロナウイルス感染症対策のため、規模を縮小しての開催となった。



●学位記を受け取る総代の内山莉緒さん

大友邦学長から総代の内山莉緒さん（言語聴覚学科）に学位記が授与された後、学長賞の表彰が行われた。

大友学長、高木邦格理事長、宮崎勝国際医療福祉大学成田病院院長の式辞に続き、来賓の小泉一成成田市長が祝辞で「医療福祉の専門職が成田の地から輩出されることを心待ちにしていた。地域の方々からも『大学ができてよかった』という声を多く耳にした。専門的知識や経験、グローバルな感覚を生かし、活躍されることを期待している」と述べた。

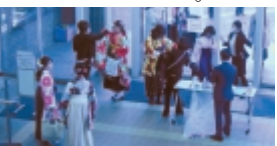
これを受けて内山さんが謝辞で「1期生として前例のないなか、さまざまな貴重な体験が、

小田原キャンパス 学位記授与式

暖かな陽ざしに恵まれた3月13日、小田原キャンパス本校舎の6階講堂ラウンジで学位記授与式を挙行政した。例年より縮小したしめやかな式典となったが、凛々しいスーツ姿や色とりどりの袴姿の学生たちが式典に花を添え、卒業生174人（看護学科91人、理学療法学科43人、作業療法学科40人）を代表して早川佳那子さん（理学療法学科）が学位記を受け取った。



●学科別学位記伝達式



●エントランスでの検温

式典が終了すると、会場では集合写真撮影を行った。卒業生の集合写真は庄巻で整列した卒業生たちは堂々たる自信に満ちた表情を浮かべ、学位を授与された喜びとこのキャンパスで学んだ4年間という時間を振り返っているように見えた。続いて学科別に写真撮影を終えると、苦菜をもたしてきた学科の仲間たちとともに学位記伝達式会場へ向かっていった。

（総務係 伊能理恵）

大川キャンパス・福岡キャンパス 合同学位記授与式

福岡看護学部・福岡保健医療学部合同の学位記授与式は3月9日、福岡市百道浜の福岡国際医療福祉学院体育館で行われた。学部生318人（看護学科92人、理学療法学科71人、作業療法学科39人、言語聴覚学科39人、医学検査学科77人）を代表し、福岡保健医療学部作業療法学科の原梨沙さんに、学部総代として大友学長より学位記が授与された。各学科の学業成績最優秀者である理学療法学科の長田響生さん、作業療法学科の原さん、言語聴覚学科の山崎水月さん、医学検査学科の岩本礼奈さん、看護学科の眞田莉瑚さんには学長賞が授与された。



●大友学長による式辞

大友学長、高木邦格専務理事の式辞に続き、来賓の蔵内勇夫福岡県議会議員から祝辞をいただいた後、山崎さんが「卒業生謝辞」を述べた。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で短縮したプログラムでの実施となったが、卒業生の晴れやかな笑顔に、あらためて彼らの今後の活躍を心から願う教職員一同であった。

（入試学生募集課 井上雅博）

大学院 学位記伝達式

東京赤坂キャンパスで3月14日、大学院学位記伝達式が行われた。新型コロナウイルス感染症対策のため、式典は簡素化され、博士課程・修士課程それぞれ代表者2人への学位記伝達となった。博士課程の川村晴美さん、若林馨さんに続いて修士課程の菅満喜さん、アウン・チョウ・トインさんに三浦総一郎大学院長より学位記が授与された。その後、菅満喜さんとアウン・チョウ・トインさんには大学院学長賞も授与された。

短時間での実施だったが、暗れ着やバチエラ1ガウンに身を包んだ修了生の姿も目立ち、厳かな雰囲気の中、皆引き締まった晴れやかな表情で式典に臨んでいた。



●三浦大学院長による式辞

三浦大学院長の式辞に続き、竹内孝仁教授が祝辞で、これまでの研究生活へのねぎらいの言葉と、これからの研究者生活への激励の言葉を贈った。出席者は気持ちを引き締め、心を新たにしたい様子だった。

2020年度は、新型コロナウイルス感染症の影響もあつてか、前年度よりは少し人数を減らしたものの、450人の入学者を迎えた。このような困難な状況の中、本大学院への進学を選んでいただいた新入生が実りある研究生生活を送ることができるよう、大学院事務局では各キャンパス間で連携し、職員一丸となつて力を尽くしていきたい。

（事務部 井上大輔）

私たちを大きく成長させてくれた。大学で学んだすべてを生かし、相手の立場に立った医療福祉を実践することで、『共に生きる社会』の実現に貢献できるよう努力する」と誓った。



続いて、それぞれの学科・大学院に分かれて学位記伝達式を行い、卒業生・修了生一人ひとりに学位記が授与されるとともに、記念品が贈呈された。

（広報 金井雅之）

塩谷看護専門学校 卒業式

塩谷看護専門学校は3月4日、本校講堂で卒業式を行った。国際医療福祉大学の新井田孝裕副学長の式辞に続き、来賓の塩谷郡市医師会山下晃弘会長代理、公益社団法人栃木県看護協会渡邊カヨ子会長から祝辞をいただき、47人の新たな門出を祝った。



●卒業証書授与



●答辞



●卒業生から記念品贈呈

卒業生は気持ちを新たに看護の道の第一歩を踏み出した。卒業生のさらなる飛躍と今後の活躍を教職員一同期待している。

（事務部 田島鮎子）

令和元年度学位記授与式

卒業生総代・学長賞

卒業生総代・学長賞

大田原キャンパス
保健医療学部
看護学科
齋藤 梨沙



大学生活を振り返りますと、数多くの貴重な経験と、かけがえのない人々との出会いや自分自身と向き合う時間のなかで、人間として大きく成長することができました。

また諸先生方には、専門職としての知識や技術に留まらず、社会人や医療人としての心得など数多くのことをご指導いただきました。

この4年間ともに支え合ってきた友人たち、そして陰ながら見守ってくれた家族には深く感謝しております。

まだまだ未熟な私たちですが、相手の立場に立った医療や福祉を实践することと、「共に生きる社会」の実現に貢献できますよう、努力してまいります。新型コロナウイルス対策では、本学の先生方や先輩方が治療の最前線でご活躍と聞いております。私たちもこのような健康危機に直面した時に、本学卒業生としての自覚を持ち、医療福祉の専門職として率先して行動できるよう日々精進していきたいと思っております。

成田キャンパス
成田保健医療学部
言語聴覚学科
内山 莉緒



大学生活を振り返ると、座学や実習を通して医療人、社会人としての心得を学び、さまざまなことを経験し、そこから多くのことを感じ、人間として大きく成長することができたと実感しています。

この4年間が充実した時間になったのは、苦楽とともにし、同じ目標に向かって切磋琢磨したかけがえのない友人たち、温かく見守り丁寧に指導くださった先生や実習指導者の方々、臨床実習や実技演習でお世話になった患者さんなど、多くの方々のおかげです。この場をお借りして深く御礼申し上げます。

これからは、国際医療福祉大学で学んだすべてのことを生かし、目の前の一つひとつに実直に取り組んでいきたいと思いをします。

小田原キャンパス
小田原保健医療学部
理学療法学科
早川 佳那子



新生活への期待や不安を抱え入学してから早くも4年という月日が経過しました。

この4年間で理学療法とは何か、その世界の多彩さを学ぶことができました。

小田原保健医療学部
作業療法学科
宮下 咲雪



福岡看護学部
看護学科
眞田 莉瑚



大川キャンパス

福岡保健医療学部
理学療法学科
長田 響生



福岡保健医療学部
言語聴覚学科
山崎 水月



福岡保健医療学部
医学検査学科
岩本 礼奈



験のなかで知識や技術、考え方など多くのことを学びました。この4年間で得たことを生かし、周囲の方々に信頼していただける作業療法士になれるよう、今の自分に満足せず、今後も向上心を持って頑張っていきます。

学長賞

大田原キャンパス

保健医療学部
理学療法学科
鈴木 直哉



保健医療学部
作業療法学科
村上 瑞季



保健医療学部
言語聴覚学科
高田 みなみ



保健医療学部
視機能療法学科
熊井 理子



保健医療学部
放射線・情報科学科
本間 大晴



大学院長賞

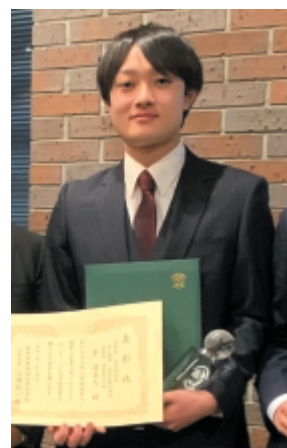
医療福祉学研究科
博士課程 保健医療学専攻
視機能療法学分野
佐藤 司



優れた学術論文とは、新規性(Originality)、有効性(Availability)、信頼性(Reliability)を兼ね備えたものです。Introductionでは先行研究で明らか部分と空白の部分が明確に記載されており、目的と仮説がはっきり提示されています。Methodでは、他の研究者が再現できるように研究方法が明確に記載されています。Resultの図表は単純明快であり、Discussionでは穴のない理論的考察がなされています。そして研究分野に大きく貢献でき、有効性のあるものです。

私はこんな学術論文を書きたいと思い、博士課程の3年間 研究活動に取り組んできました。この度、名誉ある大学院長賞を受賞させていただき、少しでも理想とする学術論文に近づけたかなと僥倖ながら実感しております。国際医療福祉大学という素晴らしい環境の中で自らを磨くことができたのも、ひとえに諸先生方や職員の皆様、先輩方、友人、そして家族のおかげです。今日まで私たちを支えてくださった方々に感謝し、さらなる高みをめざして新たな一歩を踏み出していく所存です。

医療福祉学研究科
修士課程 保健医療学専攻
放射線・情報科学分野
菅 満喜人



大学院生としての2年間は臨床業務を行う傍ら、研究を効率良く行うにはどうすれば良いのかが求められました。肉体的にも精神的にも大変でしたが、日常的に患者さんと接する機会があったことは、結果として学業や研究を行う上で良いモチベーションに繋がりました。

この2年間の振り返ると特に印象に残っているのは、辛い時や苦しい時に支え、嬉しい時には自分のことのように喜んでくれた仲間たちや先生方の存在があったことです。周囲の方々に恵まれ、本当に幸せな2年間でした。

最後に、仕事との両立で大変ではありましたが、職場の皆様の理解、研究に携わってくださった先生方、国際医療福祉大学教職員の皆様のサポートがあったからこそ続けてこられました。名誉ある大学院長賞を受賞することができたことを嬉しく思うとともに、この場をお借りし皆様に感謝申し上げます。

学長賞・大学院長賞

小田原キャンパス
小田原保健医療学部
看護学科
大貫 菜央



成田保健医療学部
医学検査学科
千葉 清徳



成田保健医療学部
作業療法学科
佐野 陽南子



成田保健医療学部
理学療法学科
秋元 恵理



成田看護学部
看護学科
武崎 七彩



成田キャンパス

薬学部
薬学科
伴野 友香



医療福祉学部
医療福祉・マネジメント学科
竹澤 翔摩



医学研究科 修士課程
公衆衛生学専攻
国際医療学分野
Aung Kyaw Thwin
(アウン・キョウ・トゥーン)



University provides me a lot of great opportunities to share my experiences and research findings in local and international conferences presentations and publications in journals during my study period. Apart from the academic experience, I cherish every moment I spent with classmates. International Exchange Center (IEC) from our campus allows me to build connections with students from other countries and I am proud to be in this great network and hope to see or work together someday and somewhere in the world.

During my study in Japan, Professor Koji Wada (my supervisor) taught me a lot, not only science but also manners and ways of thinking in research. Sessions in global health, demography, epidemiology and statistics equipped me with the right knowledge and skills to successfully carry out my master's thesis with the guidance of my supportive research supervisors. I am honored and grateful to be one of the MPH graduates in IUHW.

My name is Aung Kyaw Thwin, a medical doctor from Myanmar. Before I came to Japan, I worked as a malaria team leader in NGO. International University of Health and Welfare (IUHW) was a perfect match for me as its two-year public health course has a wide variety of courses handled by expert and skilled professors and allows students to select courses to fit their career or interest. For two years, I have been learning the latest sciences in Global Health and medical sciences.

Studying in Japan has given me the chance not only to complete my Master's Degree and continue studying, but also learn about the country's culture and traditions. The teachers and staff are all incredibly supportive and are always willing to help with anything. The learning experience in IUHW was professional, motivated, and inspiring as it enhanced my skills and abilities to think globally and in a comprehensive manner.

2019年度 博士課程修了者・論文博士合格者一覽

【看護学分野】

- ・天野 敏江 「重い精神障害をもつ人を支援する精神科訪問看護のための教育プログラムの作成と評価」
- ・井上 由佳 「全身体性エリテマトーデスを抱えながら就労する女性の就労継続の困難とQOLの関連」
- ・川村 晴美 「急性期病院で認知症高齢者をケアする看護士の困難感のバリエーション」
- ・末永 真由美 「認定看護師の部署内活動における自律性尺度の開発」
- ・中澤 沙織 「認定看護師が認識する実地指導者のサポートがリソースに及ぼす影響」
- ・西原 美子 「在宅重症心身障害児の被虐待を訪問看護士が認知するための被虐待リスクの指標の開発」
- ・町田 貴絵 「病棟チーム連携の尺度開発および影響要因」
- ・青木 恵美子 「看護学演習における看護学教員に求められるフシリテーションスキル尺度の開発」
- ・石橋 昭子 「精神科訪問看護士からみた統合失調症者に対するレスパイトケアの活用可能性に関する研究」
- ・江口 晶子 「市町村保健師による発達障害の特性をもつ子どもの保護者に対する支援技術の明確化」
- ・坂美奈子 「看護教員を対象とした協働参加型授業改善プログラムの構築と検証」
- ・仲野 宏子 「60歳代地域在住者のフレックスタイプな活動と疲労感について」
- ・柏木 良幸 「計画的行動理論を用いたリハビリにおける若年者の男女のコンドーム使用行動モデルの開発」
- ・三橋 祐子 「産業看護職の地域保健との連携コンピテンシーとその関連要因に関する検討」
- ・中居 由美子 「助産師の乳房ケアの指腹圧迫力・動作とアセスメント分析」
- 【助産学分野】
- ・相原 正博 「産前産後期における骨格筋再構築と筋内血管の新生」
- ・飯島 進乃 「周術期消化器がん患者の歩行における体幹前傾角の経時的変化」
- ・石田 武希 「維持透析患者の易疲労性から捉えた歩行能力低下に関連する身体的・精神的機能の分析」
- ・伊藤 晃洋 「胸骨正中切開心臓外科手術後における脊柱ライメント可動域の変化と要因解析」
- ・伊藤 将司 「片側性A患者に対する歩行補助具を用いた歩行分析」
- ・齊藤 和快 「理学療法士の視点からとらえたプロフェッショナルサッカー選手の競技復帰に関する研究」
- ・嶋田 裕司 「足指踵荷重起立を用いた新たな運動療法の介入効果」
- ・谷口 隆憲 「頸椎変性疾患患者における頸椎の不安定性と脊柱管狭窄および椎間板変性の関係」
- ・古谷 友希 「回復期リハビリテーション病棟入院患者における身体活動量の变化および運動療法介入の試み」
- ・山下 淳一 「理学療法士のキャリア支援システム構築への調査および開発」
- ・役割移行時に主任職が感じる困難感の解消に向けて」
- ・和田 三幸 「理学療法士における卒前卒後教育が就業に与える影響」
- ・青柳 達也 「理学療法士養成課程における学内生活および実習時の不安について」
- ・関口 賢人 「Body cortex somatopic presentation after restriction of neck movement in rats」

- ・半田 直子 「若年健康女性における背部への軽擦並びに温熱刺激が心拍数におよぼす影響とその自律神経機序」
- ・石田 正澄 「脳卒中患者の短下肢装具装着に関する研究」
- ・岡山 裕美 「歩行速度の遅い高齢者の歩行におけるPCEおよび表面筋電図に関する研究」
- ・今井 祐子 「20歳代女性の体型に関する特性の解明」
- ・神尾 博代 「骨盤底筋群の収縮機能に及ぼす影響に関する研究」
- 【作業療法学分野】
- ・岡田 宏基 「統合失調症の社会機能に陰性症状が与える影響」
- ・坂下 竜也 「心臓血管外科領域における術後せん妄に対してICUから開始するADL訓練の効果検証」
- ・陳内 大輔 「課題の複雑性と注意機能が運動準備単位に与える影響」
- ・易度の異なる「重課題検査および注意機能検査の関係」
- 【言語聴覚分野】
- ・山本 弥生 「聴覚障害児の時間分解能」
- 【視能聴覚学分野】
- ・佐藤 司 「Biomtry: A tool for the detection of amblyopia risk factor in children」
- 【福祉支援学分野】
- ・小島 みさお 「地域在住高齢者の尿失禁の実態と相談意向に関する調査研究」
- ・村山 裕 「底屈制動短下肢装具を用いた歩行の回復期片麻痺者の歩行の変化」
- ・本宮 文嗣 「フルタイムワークの効果を指標と指導方法の検討」
- ・本谷 竜太郎 「脳卒中片麻痺患者の定量的指標を用いた異常歩行分析」
- ・若林 和枝 「在宅末期がん患者の福祉用具利用における3職種の支援のあり方」
- ・小林 宏気 「福祉用具利用者に対する情報収集業務実態と情報共有の課題に関する研究」
- 【リハビリテーション学分野】
- ・今井 舞 「長期使用した金属支柱付き短下肢装具のあき部分の破損機序について」
- 【臨床検査学分野】
- ・杉田 義弘 「尿中ケト基及びヒドロキシル基を含む化合物の高速液体クロマトグラフィー検出による癌のスクリーニング検査法の開発」
- 【医療福祉経営学分野】
- ・後藤 隆太郎 「リハビリテーション臨床評価指標の因子構造比較研究」
- ・BMSとFIMについて」
- ・無藤 友康 「モバイロおよびインターネットによる禁煙治療の費用対効果」
- ・草刈 由美子 「急性期病院に勤務する看護士の急性ストレス反応とその関連要因の構造分析」
- ・後藤 浩志 「保険薬局調剤データベースを用いた多剤服用の実態調査とデライティングによる要因分析」
- 【診療情報管理・分析学分野】
- ・坂本 幸平 「PCC対症病院における不慮の院内死亡影響を与える要因に関する研究」
- 【先進的ケアネットワーク開発研究分野】
- ・金廷恩 「高齢者自立支援介護実践に向けた課題における日報比較」
- ・護職の意識とサービスの現状を中心に」
- ・牛頭 潤子 「家族向けの認知症介護教室等の活用による家族介護者の意識行動変容に関する研究」
- 【臨床心理学分野】
- ・若林 馨 「女性閉経者の自己同一性に関する研究」
- ・正木 啓子 「ライントの自死が心理臨床家に与える影響と支援に関する研究」
- ・皆川 久仁子 「文化心理学の視座から見た日本人米国家駐在員表の異文化受容プロセス」
- 【薬学研究科】
- ・兼安 貴子 「経口血糖降下薬の費用効果分析と日本の糖尿病診療ガイドラインの提言」

新任のごあいさつ



成田保健医療学部学部長を拝命いたしました。3月までは医学検査学科長でしたが、今後は新たに開設された放射線情報科学科を含めた5学科での関連職種との連携をより密に、そして強固にしていく所存です。

成田保健医療学部学部長
長沢 光章



赤坂心理・医療福祉マネジメント学部長を拝命いたしました。皆様もご存知のように、2020年は新型コロナウイルス感染症の拡大によって人類は未曾有の危機にさらされており、いつ終息するのか予想がつきません。このような状態が長期化すると、人々のメンタルヘルスが悪化します。一方、新型コロナウイルス危機によって医療マネジメントの重要性が改めて認識されたかと思えます。

赤坂心理・医療福祉マネジメント学部長
中田 光紀

このたび、赤坂心理・医療福祉マネジメント学部長を拝命いたしました。皆様もご存知のように、2020年は新型コロナウイルス感染症の拡大によって人類は未曾有の危機にさらされており、いつ終息するのか予想がつきません。このような状態が長期化すると、人々のメンタルヘルスが悪化します。一方、新型コロナウイルス危機によって医療マネジメントの重要性が改めて認識されたかと思えます。

このたび、赤坂心理・医療福祉マネジメント学部長を拝命いたしました。皆様もご存知のように、2020年は新型コロナウイルス感染症の拡大によって人類は未曾有の危機にさらされており、いつ終息するのか予想がつきません。このような状態が長期化すると、人々のメンタルヘルスが悪化します。一方、新型コロナウイルス危機によって医療マネジメントの重要性が改めて認識されたかと思えます。

このたび、赤坂心理・医療福祉マネジメント学部長を拝命いたしました。皆様もご存知のように、2020年は新型コロナウイルス感染症の拡大によって人類は未曾有の危機にさらされており、いつ終息するのか予想がつきません。このような状態が長期化すると、人々のメンタルヘルスが悪化します。一方、新型コロナウイルス危機によって医療マネジメントの重要性が改めて認識されたかと思えます。

このたび、赤坂心理・医療福祉マネジメント学部長を拝命いたしました。皆様もご存知のように、2020年は新型コロナウイルス感染症の拡大によって人類は未曾有の危機にさらされており、いつ終息するのか予想がつきません。このような状態が長期化すると、人々のメンタルヘルスが悪化します。一方、新型コロナウイルス危機によって医療マネジメントの重要性が改めて認識されたかと思えます。

このたび、赤坂心理・医療福祉マネジメント学部長を拝命いたしました。皆様もご存知のように、2020年は新型コロナウイルス感染症の拡大によって人類は未曾有の危機にさらされており、いつ終息するのか予想がつきません。このような状態が長期化すると、人々のメンタルヘルスが悪化します。一方、新型コロナウイルス危機によって医療マネジメントの重要性が改めて認識されたかと思えます。

このたび、赤坂心理・医療福祉マネジメント学部長を拝命いたしました。皆様もご存知のように、2020年は新型コロナウイルス感染症の拡大によって人類は未曾有の危機にさらされており、いつ終息するのか予想がつきません。このような状態が長期化すると、人々のメンタルヘルスが悪化します。一方、新型コロナウイルス危機によって医療マネジメントの重要性が改めて認識されたかと思えます。

福岡薬学部学部長・薬学科長
武田 弘志

薬学博士、医学博士。東京医科大学薬学部教授、日本緩和医療薬学会理事長・会長、日本ストレス学会副理事長・会長、日本薬理学会理事・関東部会長、日本神経精神薬理学会理事・会長などを歴任。

このたび、赤坂心理・医療福祉マネジメント学部長を拝命いたしました。皆様もご存知のように、2020年は新型コロナウイルス感染症の拡大によって人類は未曾有の危機にさらされており、いつ終息するのか予想がつきません。このような状態が長期化すると、人々のメンタルヘルスが悪化します。一方、新型コロナウイルス危機によって医療マネジメントの重要性が改めて認識されたかと思えます。

新任のごあいさつ

この2020年4月、世界的な新型コロナウイルス感染症の拡大による東京オリピックの延期や緊急事態宣言の発令による大学の休業に伴うWeb授業を余儀なくされています。今後、早期の克服へ向けた対策に参画するとともに、学生に対する配慮や指導を行っていきます。皆様のご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

このたび、赤坂心理・医療福祉マネジメント学部長を拝命いたしました。皆様もご存知のように、2020年は新型コロナウイルス感染症の拡大によって人類は未曾有の危機にさらされており、いつ終息するのか予想がつきません。このような状態が長期化すると、人々のメンタルヘルスが悪化します。一方、新型コロナウイルス危機によって医療マネジメントの重要性が改めて認識されたかと思えます。

このたび、赤坂心理・医療福祉マネジメント学部長を拝命いたしました。皆様もご存知のように、2020年は新型コロナウイルス感染症の拡大によって人類は未曾有の危機にさらされており、いつ終息するのか予想がつきません。このような状態が長期化すると、人々のメンタルヘルスが悪化します。一方、新型コロナウイルス危機によって医療マネジメントの重要性が改めて認識されたかと思えます。

このたび、赤坂心理・医療福祉マネジメント学部長を拝命いたしました。皆様もご存知のように、2020年は新型コロナウイルス感染症の拡大によって人類は未曾有の危機にさらされており、いつ終息するのか予想がつきません。このような状態が長期化すると、人々のメンタルヘルスが悪化します。一方、新型コロナウイルス危機によって医療マネジメントの重要性が改めて認識されたかと思えます。

このたび、赤坂心理・医療福祉マネジメント学部長を拝命いたしました。皆様もご存知のように、2020年は新型コロナウイルス感染症の拡大によって人類は未曾有の危機にさらされており、いつ終息するのか予想がつきません。このような状態が長期化すると、人々のメンタルヘルスが悪化します。一方、新型コロナウイルス危機によって医療マネジメントの重要性が改めて認識されたかと思えます。

新任のごあいさつ

薬学部
薬学科長

八木 秀樹



東北大学薬学部卒。同大学院薬学研究科博士課程前期課程修了。塩野義製薬(株)研究所研究員。東北大学医学部助手。近畿大学薬学部助手、講師、准教授を経て本学着任。

このたび、薬学科長を拝命いたしました。私はこれまで免疫学を基盤に多発性硬化症の特効薬フィングリモドの開発研究や、抗体医薬品のシーズ研究に従事して参りました。

過去5年間、私立大学新卒「薬剤師国家試験」合格率全国1位または2位を記録している当学部の高い合格率維持は無論のことですが、さらに、現場に求められる薬剤師を創出すべく、カリキュラムの充実、特に問題解決能力の醸成をめざし、科学的思考力を身につけられる方略を試行し、努力していく所存です。皆様のお一層のご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

小田原保健医療学部
看護学科長

横島 啓子



杏林大学保健学研究科博士課程修了。東海大学医療技術短期大学、順天堂大学保健看護学部専任准教授。武庫川女子大学看護学部教授を経て本学小田原保健医療学部看護学科教授。

本学には昨年4月に入職し、このたび小田原保健医療学部看護学科長を拝命いたしました。小田原保健医療学部は2006年に開設され、これまで医療業界の幅広い分野で活躍できる看護職者を社会に送り出してきました。

医療の高度化や利用者のニーズの多様化に伴い、社会における看護職者の役割は多岐にわたると考えます。今後もチーム医療や地域において中心的な役割を担うことができる、高い専門的能力や技術力を持つ人材の育成をめざし微力ながら尽力してゆくと所存です。今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

成田看護学部
看護学科長

岡田 佳詠



聖路加国際大学大学院博士後期課程看護学研究科精神看護学専攻博士課程修了。藤田保健衛生大学病院、愛知県立城山病院等で臨床経験後、聖路加看護大学看護学部講師、筑波大学医学医療系准教授などを経て現職。

この度、成田看護学部看護学科長を拝命致しました岡田佳詠と申します。コロナ感染拡大の影響により、教育体制の転換が求められるなか、大変な重責を担うこととなり、身の引き締まる思いです。

医療崩壊の危機が叫ばれ、看護師を含む多くの医療従事者がリスクを負いつつも賢明に職務にあたられる姿を拝見し、心から敬意を表します。同時に、将来、看護職をめざす学生、看護職でもある教員に何ができるかを日々模索しています。それは、一人ひとりが心身の健康を守ることに尽きると考えます。この事態をチャンスに変えられるよう努めてまいります。

成田保健医療学部
放射線・情報科学科長

勝俣 健一郎



京都大学卒、現(株)芝芝で医用機器の開発に従事、X線CT事業部長、東芝メディカルシステムズ取締役を経て本学に着任。今回大田原に続き成田の新設学科の学科長に着任。

成田にも放射線情報科学科を開設するということで、昨年来学科長予定者として学生募集活動を行ってきました。開設の許可がなかなか得られず、受験予定者からも「本

当に来年4月から始まるのですか」と聞かれたりし、どれだけの受験生が集まるか心配していましたが、幸い非常に多くの受験生が集まり、その中から一期生54人が晴れて入学となりました。新型コロナウイルス問題で大変なスタートとなりましたが、大田原での経験を生かし、新しく着任した先生方と力を合わせ全員が無事念願の診療放射線技師になれるよう、努力していきたいと思っております。

小田原保健医療学部
理学療法学科長

森田 正治



国立療養所福岡東病院附属リハビリテーション学院卒。玉川大学文学部(現教育学部)教育学科卒。長崎大学大学院医学研究科修了(医学博士)。日本理学療法士協会代議員。

当グループには、九州地区の柳川リハビリテーション学院及び福岡国際医療福祉学院それぞれの開設から携わり30年目を迎えました。2010年以降、国際医療福祉

大学大学院を兼任し、12年10月から1年半大田原キャンパス、14年から6年間大川キャンパスの勤務を経て、4月1日付で着任いたしました。これまでの教育経験に加え、大田原および大川キャンパス在職中の貴重な経験を生かし、小田原の地で更なる変革を求めながら、国際性豊かな保健医療のエキスパートの養成に携わっていきます。どうぞ宜しくお願いいたします。

福岡保健医療学部
理学療法学科長

金子 秀雄



国立療養所東京病院附属リハビリテーション学院卒業。国際医療福祉大学大学院博士課程修了。東京大学医学部附属病院、柳川リハビリテーション学院を経て本学着任。

大川キャンパスは16年目を迎え、この間、歴代の学科長のもと教育体制が構築され、先生方の献身的な指導により多くの理学療法士が輩出されました。私も開設準備から関わり、理学療法教育に従事してまいりました。4月から福岡保健医療学部理学療法学科長を拝命し、重大な職務を引き継ぐことになり、身が引き締まる思いがしております。

多様化する社会のニーズに応え、専門性を探求し確実なサービスを提供できる理学療法士の育成をめざしていきたいと考えております。皆様のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

山王メディカル
センター 院長

山中 寿



三重大学医学部卒業、米国スクリプス研究所に留学。東京女子医大附属膠原病リウマチ痛風センター所長、同膠原病リウマチ内科学教授・講座主任を経て2019年から山王メディカルセンターに着任。

このたび、医療法人財団順和会山王メディカルセンター院長を拝命いたしました。

山王メディカルセンターは、国際医療福祉大学グループのなかにあつて、予防医学、透視医療、専門外来を三本柱とする医療施設ですが、青山二丁目のコンパクトな施設に専門の異なる医師や医療職が集まっていることが特色です。

私は、東京女子医大において同規模のセンターを所長として運営してきた経験を有効に生かし、多彩な専門職のハブ的存在として3つの部門を円滑に運営し、患者さんや受診者の満足につながる医療を展開したいと思っています。グループ内の皆様の、多方面からのご指導をお願い申し上げます。

赤坂山王保育園
園長

柿澤 佳子



宝仙学園短期大学保育科卒・墨田区立保育園、港区立保育園保育士・港区立芝保育園園長・港区役所子ども家庭課保育担当総括係長・港区立白金・こうなん・南青山保育園園長を経て現職。

このたび、2020年4月開園、赤坂山王保育園初代園長を拝命いたしました。東京赤坂キャンパスW棟2階・3階に位置し、1400平方メートルの床面積のなかに180平方メートルの広い遊戯室を持ち、園児定員121人の大型の保育園を運営いたします。これまで40年

余り公務員として保育に携わってきた経験を生かし、職員の指導にも力を注いでいきたいと思います。そして、赤坂の地で子育てに奮闘される保護者の皆様や、都会のなかの子どものためのオアシスになることをめざし、のびのびと子どもらしい成長へと繋げられるよう職員一同研鑽してまいります。

子どもたちの成長過程のさまざまな状況に対応できるようグループ関連施設、心理学、言語聴覚学、作業療法学など専門分野の皆様と連携を持たせていただき、地域の子育て家庭の期待に応えられる施設運営に努めてまいります。ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

子どもたちの成長過程のさまざまな状況に対応できるようグループ関連施設、心理学、言語聴覚学、作業療法学など専門分野の皆様と連携を持たせていただき、地域の子育て家庭の期待に応えられる施設運営に努めてまいります。ご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

サポートハウス那須
施設長

小湊 雄一



宇都宮大学教育学部卒業後、栃木県公立小中学校教員として37年間勤務。大田原市立湯津上中学校校長を最後に退職し、今年4月、サポートハウス那須施設長に就任。

この度、「サポートハウス那須」の施設長に就任いたしました。私は、長きにわたり栃木県公立小中学校に勤務し、学校教育現場一筋で職務を全うしてまいりました。そのようななか、特別支援教育や生涯学習等を通じ、少なからず障害者児童生徒などに對して、現場での経験や研修も積んでまいりました。しかし、現在の職場に着任し1カ月以上が経過しましたが、これまで培ったもの以上に高い専門的知識や経験が求められることを痛感しております。

当施設は、障害者支援施設として地域に根差し、多くの方々に入所及び通所によるご利用をいただいております。つきましては、1日でも早くサポートハウス那須の施設長として、その使命を果たし、皆様に尽力できますよう、日々研修を重ね、努力してまいりたいと考えております。どうぞご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願いいたします。

この度、「サポートハウス那須」の施設長に就任いたしました。私は、長きにわたり栃木県公立小中学校に勤務し、学校教育現場一筋で職務を全うしてまいりました。そのようななか、特別支援教育や生涯学習等を通じ、少なからず障害者児童生徒などに對して、現場での経験や研修も積んでまいりました。しかし、現在の職場に着任し1カ月以上が経過しましたが、これまで培ったもの以上に高い専門的知識や経験が求められることを痛感しております。

当施設は、障害者支援施設として地域に根差し、多くの方々に入所及び通所によるご利用をいただいております。つきましては、1日でも早くサポートハウス那須の施設長として、その使命を果たし、皆様に尽力できますよう、日々研修を重ね、努力してまいりたいと考えております。どうぞご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願いいたします。

那須こどもの家
施設長

田中 浩之



国立武蔵野学院附属教職員養成所卒業後、国立きぬ川学院に就職。厚生労働省社会的養護専門官、国立武蔵野学院調査課長、鳥取県立喜多原学園施設長を勤務後、「那須こどもの家」に着任。

私は、これまで国立児童自立支援施設で教官として、厚生労働省で専門官として働いてまいりましたが、この度、児童心理治療施設「那須こどもの家」の施設長を拝命し、着任いたしました。

児童心理治療施設は、児童福祉法に規定された全国に53ある児童福祉施設です。「環境上の理由により社会生活への適応が困難となった子ども」を問わず、社会生活に適応するために必要な心理的治療や生活指導を行い養育することを目的とする施設です。

当施設は、2010年に開設されましたが、近年、各自治体に次々と同じ施設が設立されています。この施設に私のこれまでの経験や知識を注いで、国際医療福祉大学のミッションと同様に児童福祉の先駆的施設となるよう尽力したいと思っております。どうかご指導ご鞭撻のほど宜しくお願いいたします。

新任のごあいさつ



救急医療部 (福岡キャンパス)

こんにちは！福岡看護学部看護学科の救急医療部です。2018年にサークルを設立後、部員が増え活動方針が定まったため、19年に救急医療部への昇格を実現することができました。創部から間もないですが部員が一丸となって頑張っています。

活動内容は、BLS(心肺停止や呼吸停止に対する一次救命処置)、ACLS(二次心肺蘇生法)プロパイダーの取得をめざした学内勉強会、学外では九州各大学(九州大学、熊本大学、長崎大学など)とのワークショップや勉強会に参加することが主な活動内容となっています。

前年度はまだ、部員の知識が乏しく各大学の勉強会に参加することしかできませんでした。しかし、今年度は九州の各大学を国際医療福祉大学に招待し、長期にわたり準備してきたワークショップを開催する予定です。準備にあたりリインストラクター用テキスト、初めてワークショップに参加する方への参加者用テキスト、参加者への講義用スライドを作成しています。その作成には、今まで学んできた各部員の知識、各大学からなるコミュニティとの連携が核となっています。私たちは作業をしていくなかで学ぶ立場だけではなく教える立場でもあることを自覚しました。その自覚は、どのようにすると相手に伝わりやすいかなど客観的な立場にたって考える能力を自然と養い、看護学生としての学習にも役立っています。



こうした活動から一般の方でも救える命があり、1人でも多くBLSについて知ってもらうことができれば沢山の命を救うことができると思います。そのことから今後の救急医療部の目標は、「医療学生だけではなく一般人の方々にもBLSを知ってもらうための活動をする」と定まりました。今後は地域の方々を対象としたワークショップや勉強会を開催したいと考えています。

メンバー構成は男子6人、女子39人の計45人です。活動ペースは基本的に、月2回の学内勉強会、ミーティングとなっています。その際に県外、県内での活動状況を共有し、今後の活動方針をその都度確認するようにしています。

救急医療に興味がある方、BLS、ACLSプロパイダーの取得を考えている方、他大学、地域の方などと楽しく学びを深めたい方など大歓迎です。皆さんの入部をお待ちしております。



福岡看護学部 看護学科3年
新宅寛高



体温測定して学位記授与式

新型コロナウイルスの感染拡大で、2019年度の学位記授与式は各キャンパスともご家族の参加を取りやめた。入口では入場者全員に対し手指のアルコール消毒と体温測定を行い、37.5度以上の熱がある場合は医師が診察する異例の態勢をとった。晴れ着姿の卒業生らは1人ひとり神妙な表情で検温にに応じていた(写真は3月11日、大田原キャンパス。記事は12-13ページ)。



広報誌 IUHW 121号 発行：学校法人 国際医療福祉大学

〔大田原キャンパス〕
栃木県大田原市北金丸2600-1 ☎0287-24-3000
〔成田キャンパス〕
千葉県成田市公津の杜4-3 ☎0476-20-7701
〔東京赤坂キャンパス〕
東京都港区赤坂4-1-26 ☎03-5574-3900
〔小田原キャンパス〕
神奈川県小田原市城山1-2-25(本校舎) ☎0465-21-6500

〔福岡キャンパス〕
福岡県福岡市早良区百道浜1-7-4(1号館) ☎092-407-0805
〔大川キャンパス〕
福岡県大川市榎津137-1 ☎0944-89-2000
編集：広報部 ☎03-5574-3828
デザイン：野佐デザイン



医療福祉の多彩なエキスパートを育てる。

国際医療福祉大学

ホームページでもご覧いただけます。
<https://www.iuhw.ac.jp/>

©国際医療福祉大学2020 Printed in Japan 禁無断転載・複写